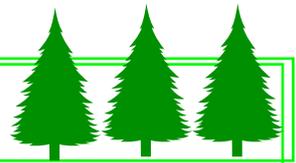




みつぎ便り



第187号 4月号 令和4年4月1日発行 http://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report



板橋区役所南部土木サービスセンターの花づくりグループとエコボリスセンターのかんきょう観察員地域自主活動グループに所属しているボランティア団体「見次の会」です



サクラソウ(桜草)

サクラソウはハート形の花びらが五枚。春に桜のように咲くことからこの名前がついたそうです。

江戸時代に戸田や浮間あたりの荒川沿いに咲いていた野生の花から、栽培したのが始まりといわれています。とても身近ですね。

さいたま市の桜区もこのサクラソウにちなんでつけられたそうです。種まきを繰り返すうちに、様々な色や大小の花形などの変り品種が作られました。

江戸時代後半には、花好きの武士などが新種を持ち寄り、品評会も開かれていたとのこと。サクラソウの色を引き立てる陶器の器に飾り、番付も発行されたそうです。春にハート形の花びらを楽しむ武士達を想像すると：なんだかほほえましい。タイムスリップして、その品評会をのぞいてみたくくなります。

見次公園では、みつぎの会のメンバーが育ててくれたサクラソウを、ポット小屋近くの花壇に、植えました。ぜひご覧くださいね。(朋)

キュウリグサ

三月から五月に田畑や道ばたに見えるので、農耕の伝来とともにアジア大陸から渡来した古い帰化植物と見られます。

見次公園のあちらこちらにも生えています。小さな目立たない植物なので、うっかり見過ごさないに探してみてください。

茎の先に花序(かじょ)と呼ばれる細長い花穂を伸ばし、たくさんの花を咲かせます。茎の高さは十五センチ



程で、根本の葉は長い楕円形です。花茎は二、三程の淡い青紫色をした小さな五弁花を、上向きにつけています。

見た目にはどこにも野菜のキュウリの印象がなく疑問に思う方も多いかもしれません。では、どこがキュウリなのか。茎や葉を手で揉むとキュウリに似た匂いがするがところから、その和名がつけました。似た植物もあるので、葉を揉んでキュウリの匂いがすれば、間違いありません。花言葉は「真実の愛」「愛しい人へ」です。姿は小さくても愛は大きい。(昭)